

令和6年度 第3回北九州市社会教育委員会議（要旨）

- 1 日時：令和7年2月10日（月） 10：00～12：00
- 2 場所：生涯学習総合センター 2階 第2・3研修室
- 3 出席者：委員 野依議長 他 7名
事務局 総務市民局 地域・人づくり部長 他3名
- 4 議題、議事の概要
 - (1) 総務市民局 地域・人づくり部長あいさつ
 - (2) 議長あいさつ
 - (3) 議題
 - ① 国における社会教育・生涯学習の方向性、論点等について
 - ② 次期北九州市生涯学習推進計画について
- 5 主な質疑応答、意見等

議題① 国における社会教育・生涯学習の方向性、論点等について

「社会教育」をどう考え、実践するのか—社会の転換点と社会教育の新たな位置づけ—

議長： 本日は、東京大学大学院教育学研究科の牧野篤教授をお迎えしている。牧野先生の貴重なお話を通じて、次期北九州市生涯学習推進計画に向けての新たな視点やキーワードなど、ヒントにさせていただきたい。

講師：≪講演 約70分≫

議長： 社会教育・生涯学習の捉え方から近代社会の成立まで、幅広い話だった。

委員： 素晴らしい講演で、勉強になった。

議題② 次期北九州市生涯学習推進計画について

事務局： 全体の共有は、後日、事務局でまとめたものを共有する。本日はグループの中での共有までとする。

資料では、「現計画が目指す社会」として、3つの社会を提示している。

1つ目は「循環型生涯学習社会」で、市民一人一人があらゆる場面で学習をし、その学習を活かし行動に移すことで、学びと活動が循環していくような社会。

2つ目は「ネットワーク型生涯学習社会」で、様々な主体がネットワークを組んで形成され、全体的に地域力が高まっていくような社会。

3つ目は「次世代育成型生涯学習社会」で、子どもの頃からの生涯学習を通じた地域との関わり合いを通じて学び、将来的に新たな地域の担い手となっていく、次世代が育成されていくような社会。

次期計画についても、計画を作って生涯学習・社会教育を進めていくことで、どういう社会になるのかということを考えていただきたい。

事務局：≪グループワーク説明≫

本日のグループワークでは、前回のグループワークで出されたキーワードと牧野先生のご講演を参考に、社会教育・生涯学習を推進した未来を想像する4つ問を立てている。

1つ目は、「あなたはどうなっていますか」。皆さん一人一人が、社会教育・生涯学習を推進した未来で皆様が1人の学習者としてどうなっているかというイメージをしていただきたい。

2つ目に、「市民一人一人がどうなっていますか」。イメージが付きづらい場合には、例えば「子どもたちが」、「高齢者が」、「子育て中の保護者が」と限定して考えてもよい。自分以外の人たちがどうなっているかという未来を考えていただきたい。

3つ目が、「地域社会がどうなっていますか」。例えば市民センター単位（小学校区）など、ある程度限定して地域社会がどうなっているかということを考えていただきたい。

最後に、「北九州市がどうなっていますか」。

≪3グループに分かれ、グループワーク 約45分≫

議長： 本日のグループワークでの意見をふまえ、次期北九州市生涯学習推進計画について検討を進めていく。

事務局： 本日のグループワークのまとめについては、事務局において作成し、後日皆様へお渡しする。

グループワーク意見要約

社会教育・生涯学習を推進した未来を想像しましょう。

(1) (一人の学習者の視点から) あなたはどうなっていますか？

1. 地域での学びと活動

- ・参加者として学びを楽しむ。
- ・スキルを生かした地域での実践、人材育成に取り組む。

2. 活動を通じた地域・社会づくり

- ・ボランティア活動を通じ、寛容でつながりのある社会を目指す。
- ・仕事と地域活動の融合を通じて、より豊かな地域社会を築く。
- ・他者と関わり、自然とつながり、存在を実感できる時間を豊かに。
- ・好きなことを個人で学び、興味を共有する人々が集まる場が広がる。

3. 効率的で個人に合わせた学び

- ・AIの活用により、効率的で最適なカリキュラムの提供。

4. 変化への対応と継続的な学び

- ・技術進化やライフスタイルの変化に対応するために学び続ける。
- ・自分で学び続けることで視野が広がり、活動の幅も広がる。

(2) “一人ひとり” がどうなっていますか？

1. 多様性と支え合う地域社会

- ・生活困窮者や外国人労働者を含む多様性を認め、居場所や活動の場を作る。
- ・支え合いを通じて生きがいのある日々の実現。

2. 子ども・若者の学び

- ・子どもたちは学校教育だけでなく社会教育の学びの機会を得る。
- ・子ども・若者の協働的幸福感を向上させる取り組みが必要。

3. 幅広い学びの実現

- ・VRや技術を活用して効率的な学びの場を提供。
- ・リカレント教育・リスキリングだけでなく自己成長のための学びを支援。
- ・学ぶことで精神的豊かさを実感し、幅広い学習を可能にする取り組み。
- ・医療や法律など実際に役立つ分野での学びの推進。

★ “一人ひとり” の未来への懸念・課題感

- ・地域の活動やクラブ活動が減少による学びの保証への懸念。
- ・家族構成やライフスタイルによる活動や生涯学習の格差拡大。

(3) “地域社会” がどうなっていますか？

1. 子どもを通じた地域コミュニティの活性化

- ・子どもを中心としたコミュニティづくりや、世代を超えた楽しい居場所の提供。
- ・子どもを通じた行事で地域が元気になる取り組み。

2. 多様性を重視した社会の形成

- ・多様な人々が認められる社会を目指し、多様な主体によるコミュニティづくり。
- ・市民センターや学区単位にとらわれない新しい社会のモデルを構築。

3. 学びを通じた地域の発展

- ・学校教育と社会教育の連携・協働による地域でのつながりを強化。
- ・学び、つながり、役割の有機的な連携による住みやすい社会の構築。
- ・共通の話題や知識を通じて地域をつなげ、活動の幅を広げる。

★ “地域社会” の未来への懸念・課題感

- ・人口減少等により地域活動や地域団体に関わる人の減少。
- ・従来の地域組織の継続へ懸念。

(4) “北九州市” がどうなっていますか？

1. にぎわいと個性を活かしたまちづくり

- ・区ごとに個性が生かされた住民が自信を持つまちづくり。
- ・彩りある街や協働型ウェルビーイングを実現される。

2. 多様性を尊重した社会

- ・北九州市全体で多様性を認め合い、外国人との共生を進める。
- ・多様な主体による社会運営を目指す。
- ・学習を通じてコンパッションを育み、互いを受け入れる街づくりの推進。

3. コミュニティの構築と支え合い

- ・ゆるやかなつながりを維持しながら、住民が主体となる活動を応援する。

4. 選択と創造の自由を重視した社会

- ・個人が自分のやりたいことを選択でき、それを許容する社会を目指す。
- ・予測困難な状況にも柔軟に対応できる創造的な当事者を支援する。

★ “北九州市” の未来への懸念・課題感

- ・コミュニティの再構築が必要。地域の担い手を確保する取り組みが必要。